

平家物語の始源へ―乱世の祈り

夢の離れ屋―能舞台―で

見果てぬ夢の続きを

いまや夢、むかしや夢

「平家物語」は平家の怨霊を鎮めるべく天台座主慈円が大懺法院で物語らせたのが始まりであった。鎮魂としての芸能である。動乱の時代に翻弄され、有為転変を余儀なくされた人々がなき大切の人について語り始め、物語る劇が始まる。語り、語られ、死者たちは蘇り、見果てぬ夢の続きが始まる。「平家物語」の始原に迫る、音楽劇。



出演

石橋	敬子
梅澤	泰子
小野口	伊織
東金	ミツキ
中江	絵美
平山	八重
本庄	由佳
前田	恵美
八田部	鉄
赤坂	真理
岩佐	鶴丈
設楽	瞬山
橘	政愛
細田	ひな子
笠井	賢一

特別出演

琵琶

能管・尺八

打楽器

衣装

作・構成・演出

2019年6月29日(土)

昼14時開演 / 夜18時開演

会場：鍊仙会能楽研修所

入場料：3500円

お申込・お問い合わせ：アトリエ花習

TEL 090-9676-3798

平家物語の始源へ―乱世の祈り

古代から中世への時代の転換点に源平の戦いはあった。それは貴族の時代から武士の時代への転換でもあった。

源平の時代を生きた天台座主慈円は「保元以後はみな乱世」といった。

壇之浦で三種の神器の草薙剣が失われたことに、武士が替わってこの国を守るとい

「道理」を見出し、滅んだ平家の怨霊を鎮魂すべく大懺法で死者の物語をさせた。

能管の鋭いヒシギの音が死者の眠りを覚まさせ、この世に呼び寄せる。琵琶が

激しく打ちたたたくように弾かれ、竹法螺が吹き鳴らされ、陣太鼓が激しく

急を告げる―時空を超えて琵琶法師、今様の歌い手が、彼方の冥界から橋掛り

を現れ出て、夢の離れ屋に登場する。

物語れ、乱世の修羅の声を！

さあ歌え、乱世の祈りを！

能「蟬丸」より、蟬丸と逆髪

能「景清」より、景清と人丸

後白河法皇「梁塵秘抄」より

覚一本「平家物語」より

敦盛最期 知章最期

小宰相身投

先帝身投 能登殿最期

知盛最期 六道語り

2019年6月29日(土)

昼公演 14時開演

夜公演 18時開演

(各回共30分前開場)

○会場：鍊仙会能楽研修所

(交通) 地下鉄(銀座線・半蔵門線・千代田線)

「表参道駅」A4出口
徒歩3分

〒107-0062 東京都

港区南青山4-21-29
TEL 03-3401-2285

駐車場はございません
なお車でのご来場は
ご遠慮ください。

○入場料：3500円

学生は1000円割引

(学生証をご提示ください)

○お申込・お問い合わせ：
アトリエ花習

TEL 090-9676-3798

